

CHINA-HOSPEQ 2018

日本医療機器テクノロジー協会 学術シンポジウム

主催：国家衛生健康委員会国際交流センター、一般社団法人 日本医療機器テクノロジー協会

後援：公益財団法人日中医学協会、中国日本商会、在中国日本国大使館

開催日時：2018年8月18日(土) 14:00～17:00

開催場所：北京・国家会議センター 307会議室

● 講演内容 テーマ「地域医療連携、地域包括ケアシステム」

オープニング 座長：于 曉初氏 元北京協和病院副院長・腎臓内科教授・元中国病院協会常務理事 10分

ご挨拶 国家衛生健康委員会国際交流センター 10分

題目 I 「日本の血液透析の現状」
～特徴と最近の話題～
〈日本医療機器テクノロジー協会 人工腎臓部会 福島 浩氏〉 発表30分
質疑応答5分

題目 II 「国策としての地域医療連携に病院はどのように対処すべきか」
ーさいたま市地域医療連携構想を例としてー
〈医療法人社団協友会 彩の国東大宮メディカルセンター 院長 坂本 嗣郎氏〉 発表50分
質疑応答10分

題目 III 「日本における地域包括ケアシステム構築の重要ポイント」
～代表的民間病院グループの取り組みを中心に～
〈戸田中央医科グループ 副会長・医療法人 横浜柏堤会 理事長 横川 秀男氏〉 発表50分
質疑応答10分

まとめ 座長 5分

一般社団法人 日本医療機器テクノロジー協会

日本医療機器テクノロジー協会(MTJAPAN)は日本の医療機器業界の振興団体です。加盟する企業は約240社。MTJAPAN加盟企業がお届けするのは、「安全で革新的な医療機器テクノロジー」です。

一般社団法人 日本医療機器テクノロジー協会は2000年11月に設立され、会員企業の国内出荷額の総合計は1.6兆円以上の規模で、日本医療機器市場の5割強を担う団体です。

本会は安全でかつより革新的な医療機器テクノロジーを速やかに提供することにより、日本をはじめ世界の医療の質の向上と日本の医療機器テクノロジー産業の振興に貢献します。



MTJAPAN
Medical Technology Association of Japan



<http://www.mtjapan.or.jp/jp/mtj/cn/>

題目 I

「日本の血液透析の現状」 ～特徴と最近の話題～

〈日本医療機器テクノロジー協会 人工腎臓部会 福島 浩氏〉

日本の透析患者は、2016年度末現在で約32万人である。HDF治療患者は23.3%で増加傾向にある。特にOn-lineHDF治療の比率が高く、透析合併症の予防対策としても多く実施されている。日本のヘモダイアフィルタや高性能透析膜（HPM）の開発は、透析合併症対策をきっかけに、β2-MGの除去効率の向上、生体適合性の向上等を目的に発展してきた。On-lineHDFやHPMダイアライザを使用するには、透析液の水質管理も重要であり、その基準作りや対応する透析装置など関連医療機器の開発、製品化が重要である。日本では在宅血液透析治療や透析施設間の連携も重要視されており、各種情報技術を活用した透析支援システム、関連医療機器の開発や活用が広がっている。

題目 II

「国策としての地域医療連携に病院はどのように対処すべきか」 ～さいたま市地域医療連携構想を例として～

〈医療法人社団協友会 彩の国東大宮メディカルセンター 院長 坂本 嗣郎氏〉

日本は急激な少子高齢化が進んでいる。国民医療費は増加の一途である。公的病院と民間病院は同じ医療保険制度の下で医療を提供している。医療保険制度は近い将来破綻する。医療費の削減が急務である。そのためには病院数を減らすことが最も効果的である。病院を減らせれば患者の受け皿として地域包括ケア病棟が誕生する。更には在宅医療、かかりつけ医のシステムが推奨されている。一方急性期病院は、さらなる機能の特化と先進医療へのチャレンジを行い、生き残りを掛けている。急性期病院の生き残りは患者に信頼される質の高い医療の提供と、24時間の救急医療体制の構築、かかりつけ医からの紹介受け入れ体制である。さらに急性期病院は容態が安定すれば地域の亜急性期病院（病床）へと患者を転院させることを余儀なくされている。救急医療体制への積極的参加と、各病院の地域連携室は不可欠の病院機能である。来る東京オリンピックまでには医療の国際化が一層拡大する。

Joint Commission Internationalの認定は病院を勝ち組と負け組に分けるであろう。

題目 III

「日本における地域包括ケアシステム構築の重要ポイント」 ～代表的民間病院グループの取り組みを中心に～

〈戸田中央医科グループ 副会長・医療法人 横浜柏堤会 理事長 横川 秀男氏〉

2025年に超高齢社会のピークを迎える日本において、2013年頃から政府は、地域包括ケアシステムの構築を提唱し、推進している。そのためには各地域において、あらゆる医療機関、介護施設がそれぞれの特徴を生かし、行政機関や各種の団体と協力し、地域住民が生涯安心して生活できるシステムを作り上げるべく、共に連携・協調していくことが重要である。地域が必要とされている分野をきめ細やかに分析し、自らの機関が担当すべき事と他の機関に担ってもらう事を的確に把握・分析し、地域全体で協力しつつ推進していくことが肝要である。

演者は、日本を代表する民間医療グループの1つである、戸田中央医科グループ（TMG）の主要法人で、横浜市西部地域を中心に医療・介護システムを展開する医療法人横浜柏堤会における、1993年から現在に至る地域でのトータルヘルスケアの取り組みを中心に、TMGの医療・介護・社会貢献活動をふまえて、地域包括ケアシステム構築の現状と重要点を報告する。



彩の国東大宮メディカルセンター 院長
坂本 嗣郎

コメント

世界的に知られているディズニーランドは顧客安全／満足度をサービスの最優先事項と考えています。私自身は本来現職の消化器内視鏡外科医ですが、その傍らディズニーランドの経営姿勢に触発され、医療界にも患者安全／満足という意識を広めようとセミナーなどの活動を続けています。

学歴・研究歴

1973年 3月 奈良県立医科大学 卒業
1973年 5月 大阪大学医学部第一外科
1973年 7月 市立芦屋病院外科
1975年 7月 大阪大学医学部第一外科
1982年 1月 米国テキサス大学医学部外科
1986年 4月 大阪大学医学部外科
1988年 1月 大阪厚生年金病院 外科医長
1991年 7月 大阪府済生会富田林病院 外科部長
1995年 4月 大阪府済生会富田林病院 副院長
1999年 8月 社会福祉法人大阪暁明館病院 院長
2004年 1月 社団協友会東大宮総合病院（現 彩の国東大宮メディカルセンター） 院長
現在に至る

資格

1973年 6月 医師免許取得
1988年 6月 大阪大学医学博士
日本外科学会 認定医・専門医・指導医
日本消化器外科 認定医・専門医・指導医
日本消化器病学会 専門医・指導医
日本内視鏡外科学会技術認定医
消化器がん外科治療認定医
日本静脈経腸栄養学会 認定医



戸田中央医科グループ 副会長
医療法人 横浜柏堤会 理事長
横川 秀男

所属学会・主たる社会活動など

日本外科学会 認定医、日本胸外科学会 認定医、日本血管外科学会員、日本心臓血管外科学会員、日本救急医学会員、昭和大学病院心臓血管外科兼任講師、昭和医学会 評議員、神奈川県警察本部 医務嘱託医、神奈川県警察本部 警察協力医、東京国税局 戸塚税務署 委託医、神奈川県老人保健施設協会 理事、横浜商工会議所 戸塚支部 副支部長、全日本病院協会神奈川支部 幹事、神奈川県体育協会 理事、神奈川県ラグビーフットボール協会 評議員

略歴

1981年 3月 昭和大学医学部卒業
1986年 3月 昭和大学医学部外科学大学院卒業
1988年 4月 昭和大学医学部外科学教室 助手
1992年12月 昭和大学藤が丘病院胸部心臓血管外科 講師
1994年 1月 医療法人財団 柏堤会（現 医療法人 横浜柏堤会） 戸塚立病院 院長
1998年 3月 医療法人財団 柏堤会（現 医療法人 横浜柏堤会） 理事長
2006年 4月 戸田中央医科グループ 副会長
2009年 4月 昭和大学ラグビー部OB会 会長
2012年11月 学校法人栄戸学園 横浜未来看護専門学校 理事長
2014年 4月 学校法人栄戸学園 横浜未来看護専門学校 学校長

学位

1987年 7月 医学博士学位

著書

21世紀に向けてのわが病院のサバイバル戦略(II) 発行:株式会社シーエムシー
最新医療経営 フェイス・スリー 2010.3 NO.307号 発行:日本医療企画
医療タイムス 週刊医療界レポート2010.1.4 NO.1947号 発行:医療タイムス社
ドクターズプラザ 2012.3 VOL.96 発行:株式会社ドクターズプラザ